

平成25年度

事業報告書

自 平成25年4月 1 日

至 平成26年3月31日

公益財団法人日本デザイン振興会

2013 年度実施事業の概要

当会は、日本を含むアジア地域の発展にデザインを通して貢献することを基本方針として、デザインプロモーションのプログラムを常に整備し、それに基づき各種事業を国内外において実施している。

2013 年度も、各国のパートナーと友好的なアライアンスを組み、様々な連携事業の強化に務めた。特に主幹事業であるグッドデザイン賞事業を、アジアのデザインの発展を図るプラットフォームとしてさらに機能させるため、タイとインドに続き、今年度はシンガポールにおいてデザイン賞創設支援を行った。また、昨年度から開始した韓国と台湾に加え、香港での現地審査を実施したほか、各種の展示会・見本市への参加、中国の大学での人材育成事業など、当会が国内で蓄積してきたプロモーション・メソッドを活用し、各国パートナーと協同し相互の共通利益の拡大を図った。

国内においても、グッドデザイン賞の更なる社会浸透と支持獲得を目指し、審査プロセスにおいては応募者との回路拡充、発表時には受賞展会場を六本木に移し都市型プログラムとして再編集して開催するなど一層の拡充を図った。同時に、デザインハブを中心としたデザインの社会化活動や広報事業、中小企業・地域振興活動、東北復興支援活動に加え、今年度からは学術活動や後援活動なども充実させ、公益性の高い事業を各種実施した。

さらに、基本方針の拡充と今後の事業性拡大を目指し、公益事業国際展開強化資産の運用を決め、最初に香港における新拠点創造事業をサブプログラムとして取組むこととした。

1. グッドデザイン賞事業

2013 年度グッドデザイン賞は、「60 年目からのグッドデザイン賞」に向けて、国内外において、デザインを生み出す活動への支援、受賞デザインの社会化、グッドデザイン賞を経済活動の中に組み込む手法など、グッドデザイン賞を活用した新たな仕組みづくりを様々なパートナーと共に各地で開始した年度となった。

具体的には、年度当初に定めた、(1) 応募者と審査委員会との回路拡充、(2) 受賞発表プロモーションの拡充、(3) アジア諸国との協力関係の拡充を基本方針とし、事業を通じた受賞者利益の増大を目指した。



1- (1) スケジュール

募集受付期間	2013 年 4 月 17 日～6 月 12 日
一次審査	6 月 20 日～7 月 11 日
二次審査	7 月 20 日～9 月 9 日
二次審査会	東京 8 月 21 日～23 日
	韓国 8 月 13 日～14 日
	台湾 8 月 15 日～16 日
	香港 8 月 27 日～28 日
	新潟 8 月 29 日
受賞発表	10 月 1 日
受賞祝賀会	10 月 30 日
受賞展開催	10 月 30 日～11 月 4 日
特別賞発表	11 月 7 日
特別賞表彰式	12 月 6 日
受賞年鑑発刊	2014 年 3 月

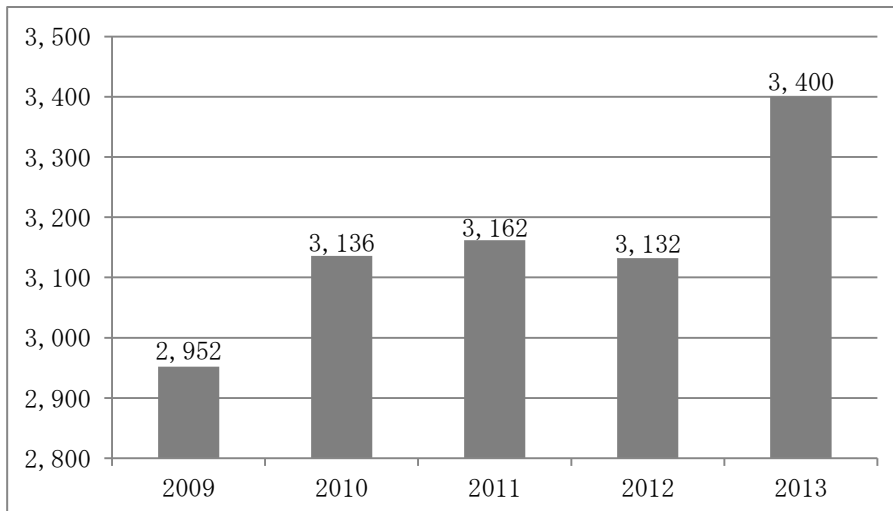


受賞祝賀会

1-(2) 応募

一般応募と審査委員推薦、タイからの制度連携に基づく応募を含めた審査対象数は3,400件となり、前年に比べて300件ほど増加した。その要因としては、形の無いデザインの領域、特に取組み、サービスデザイン領域の応募の増加や、復興支援対象地域である東北6県および茨城県からの応募、国外では中国からの応募の増加による。2012年度に引き続き、震災復興支援活動を含めた公共的な取組みの応募が増加しており、行政の取組み、社会貢献事業の実績評価や広報に際して積極的にグッドデザイン賞を活用することが定着してきている。

表1：グッドデザイン賞審査対象数の推移

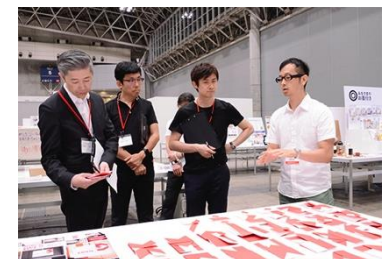


幕張メッセでの二次審査会

1-(3) 審査

①応募者と審査委員会との回路拡充

的確な審査情報をもって審査に臨むため、二次審査会において、応募者と審査委員との対話を通して審査委員が審査対象への理解を深める機会として、「対話型審査」を国内外全ての審査会場にて実施した（ただし、建築物等一部の応募対象領域は、審査委員の要望する対象についてのみ実施した）。対話型審査は応募者の希望に基づき実施したが、約6割が参加し、審査委員からも議論を深める取組みであると評価された。また、応募者の利便性を高めること、特に地方でのデザイン活動を支援することを目的に、二次審査対象が30件以上ある企業・地域に対しては現地に審査委員を派遣し、二次審査会を実施できることとした。2013年度は新潟県からの応募について、燕三条地場産業振興センターを会場として二次審査会を実施し、応募者からも好評を得た。そのほか、地方では、その地域のデザイン振興団体をパートナーとして、応募説明会を実施する際に審査委員によるセミナーを併催したり、地域での受賞報告会を実施するなど、従来とは異なる回路でのデザイン活動支援がカタチになりつつある。グッドデザイン賞のシンパサイザーを増やし、将来的な応募に結びつけるという意味でも重要な取り組みである。



対話型審査



香港での二次審査会

②アジア諸国との協力関係構築拡充

応募数の多い韓国・台湾では、応募者の利便性の向上ならびに当地の文化や産業に添った審査を行うため、現地審査委員を迎えた上で、各国で二次審査会を 2012 年度より実施している。2013 年度はこれを拡充し、香港でも二次審査を行った。

本年度から日本アセアンセンターとの共同事業として「グッドデザイン賞 メコンデデザインセレクション」を試験的に実施した。ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマーの 4 カ国について、地域や伝統に根ざしたものづくりをデザインを通して支援することを目的とするもので、本年は 7 件が受賞した。次年度以降は、デザイン指導も含めた一連のデザイン振興の仕組みとして本格的に実施する予定である。



メコンデデザインセレクション受賞作

1-（4）受賞結果

審査の結果、1,212 件がグッドデザイン賞を受賞。受賞企業数は全 20 カ国 794 社であった。うちタイ「デザインエクセレンス賞」からの受賞が 46 件、インド「インディアデザインマーク」からの受賞が 1 件、メコンデデザインセレクションからの受賞が 7 件である。

全受賞対象の中から、特別賞候補としてグッドデザイン・ベスト 100 を選出し、うち、新設した「グッドデザイン・未来づくりデザイン賞」を含めて 33 件が特別賞に選ばれた。

なお、グッドデザイン大賞は該当無しとなり、大賞候補として選ばれた 10 件の中から、選出過程において高く評価され、かつ多くの生活者から支持を得た「Google マップ」に対して、特別賞「グローバルデザイン 2013」を贈賞した。



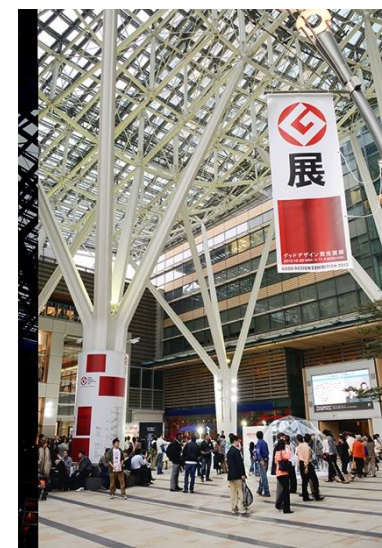
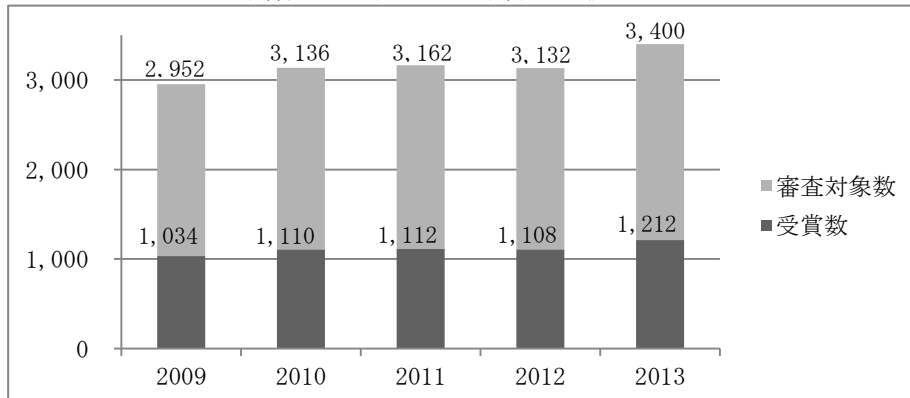
グローバルデザイン 2013
Google マップ

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞は本年度より選出方法やスケジュールをグッドデザイン賞と切り離し、実施した。生活者やデザイナーから推薦されたデザインのうち、審査を経て、25 件に対してロングライフデザイン賞を、「プリーツ プリーズ イッセイ ミヤケ」に対して、グッドデザイン・ロングライフデザイン特別賞を贈賞した。



ロングライフデザイン特別賞
プリーツ プリーズ イッセイ ミヤケ

表 1：グッドデザイン賞審査対象数および受賞数の推移



受賞展会場風景

1- (5) プロモーション

①受賞発表プロモーションの拡充

全受賞対象を発表する受賞展は、会期を東京のデザインウィークにあわせると共に会場を東京ミッドタウンに移し「グッドデザインエキシビション 2013 [G展]」として実施した。受賞祝賀会やこれまで別開催であったグッドデザイン・ベスト 100 プレゼンテーションを同時期に開催、さらに東京ミッドタウン内のオープンスペースでは企業・学校による協賛展示を誘致し、対外的な受賞発表プロモーションをひとつのイベントに仕立てて開催した。東京ミッドタウンの実施するデザインイベントやテナントとの連携企画を実施することで、来街者を受賞展に誘引することに成功し、来場者も大幅に増加した。

[グッドデザインエキシビション 2013 [G展] 来場者数]

10月30日(水)	11:00~15:00	晴れ	42,782人
10月31日(木)	11:00~20:00	晴れ	45,124人
11月1日(金)	11:00~20:00	晴れ	45,072人
11月2日(土)	11:00~20:00	曇り	49,196人
11月3日(日)	11:00~20:00	曇り	64,535人
11月4日(月/振休)	11:00~17:00	晴れ	52,615人
合計			299,324人

※グッドデザインエキシビション 2013 [G展] の第1~3会場(有料エリア) および第4~5会場(無料エリア) への総来場者数。日本デザイン振興会調べ。

②グッドデザインエキシビション 2013 [G展] 連携企画の実施

その他、時宜を活かして六本木ヒルズ、西武渋谷店、渋谷ロフト、TSUTAYA TOKYO ROPPONGI 店、TSUTAYA Tokyo Midtown 店等と商品販売を含めた連携企画を実施し、受賞デザインを広く発信することで多くの生活者との接点をつくった。また、当会関連イベントを含め、同時期に開催するデザインイベント情報をまとめたスマートフォン用アプリを開発し、来場者への利便性を高めた。

これまで見本市会場で実施していた展示イベントに比べ、露出機会や来場者は圧倒的に増え、グッドデザイン賞の PR としては十分な効果を得られた。一方、個々の受賞デザインの展示方法については会場の使い方や展示規程の設定などに課題を残した。この点は、次年度以降の改善点としたい。

[六本木周辺のデザイン関連施設、近隣施設との連携]

六本木ヒルズ:	11月3日から5日に審査委員によるキッズワークショップを計6回実施。150名参加。講師は、松井龍哉氏、廣田尚子氏など。
東京ミッドタウン:	スタンプラリーの実施、MUJI、THANN 等の店頭でグッドデザイン賞受賞商品 PR。
TSUTAYA:	TSUTAYA TOKYO ROPPONGI 店、TSUTAYA Tokyo Midtown 店にて受賞商品販売実施。のべ36社138点。
西武渋谷店・渋谷ロフト:	ロングライフデザイン賞受賞商品展示販売/Japan Creative 共同企画として日本の地域に根ざした受賞商品の展示販売。

③国内見本市への出展

日本経済新聞社主催の見本市「建築・建材展」では、特別展示企画として「グッドデザインゾーン」を設け、2013年度の受賞デザインから、住宅設備・インテリア領域の製品を約25件展示した。業界関係者が多い展示会であり、業界におけるグッドデザイン賞のイメージを構築するとともに、受賞デザインの方向性を示し、次年度以降の応募を増やすよい機会となった。今後、特に BtoB 製品に関して、見本市の機会を活用したプロモーションの機会を探りたい。

[建築建材展 2014]

日程: 2014年3月4日(火)~7日(金)
会場: 東京ビッグサイト



受賞展会場風景



渋谷ロフトでのロングライフ展



キッズワークショップ

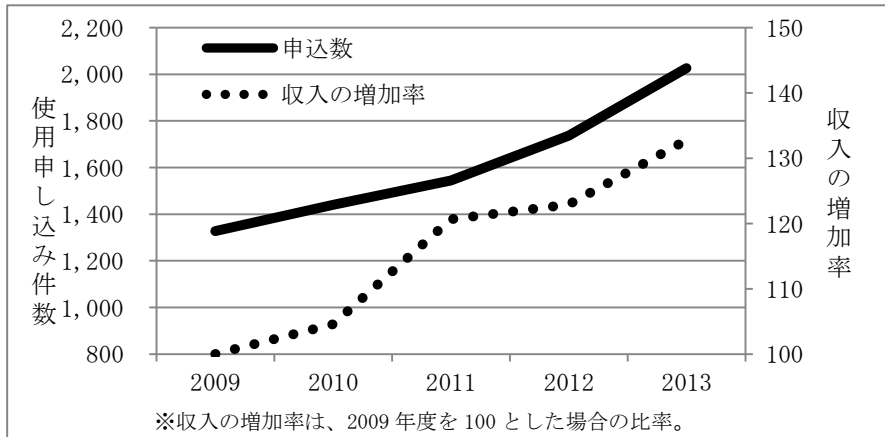


建築・建材展 グッドデザインゾーン

1-（6）Gマーク使用料等

当会が所有する商標である「Gマーク」と「GOOD DESIGN」などを組み合わせた「ロゴマーク」に関するガイドラインを受賞者がより使いやすいように改善した。この結果、本年度はGマークの使用を申込み、活用する受賞者が増加、Gマークの使用料等収入は前年度より約8%増加した。

表2：Gマーク使用申し込み件数の推移



マークとロゴの組み合わせ

2. 国内広報事業

広報事業は、デザインハブでの企画展開催を中心とする国内向けの広報事業と、海外での展示会の開催、デザインプロモーション機関・団体やデザイン系メディアとの相互互惠関係の構築と強化に向けた事業が主となる。これら各事業は、デザインに関する世論の醸成を図るとともに、当会に対する社会的な期待、信頼、信用に応える事業であり、グッドデザイン賞への参加増につながる。国内外で各事業を戦略的に行うことが、グッドデザイン賞事業の発展、新事業分野の開拓につながる重要な役割を担っている。

2-（1）デザインハブ事業

デザイン情報の発信拠点として、展示、セミナー、ワークショップ等の発信手法を効果的に組み合わせて、デザインをめぐる状況を広範かつ多様な観点から提示することに取り組んだ。展示ではのべ12回の企画展を開催した。2013年度のポイントとして、日本財団との共催による「未来を変えるデザイン」展は、企業による社会貢献や未来提言といった社会的関心の高いテーマを扱ったこと、CSR事業に熱心な国内企業19社の参加があったことなどから、デザイン専門領域の枠を超えた反響を集め、各主要日刊紙で紹介されるなどデザインハブのプレゼンスを高めることに大きく貢献した。さらに「富山のデザイン」「博多人形展」では、地域の産業とデザインの関わりを具体的な展示によって明らかにすることで、各地の課題や展望を来場者と共有するためのハブとして機能させることに成功した。2013年度はこれに加えて、日本クラフトデザイン協会との「第53回日本クラフト展」共催など、デザイン振興活動を行う組織に対してデザインハブの機能を積極的に提供して、それらの活動を支援する取り組みにも初めて着手。デザインの専門性をより開かれた場でアピールした。

例年夏季に開催して好評を博している子ども向けワークショップ「デザインハブ・キッズウィーク」は、期間中にのべ9本の企画を実施し、各社のCSRや社会教育の一環としても機能している。

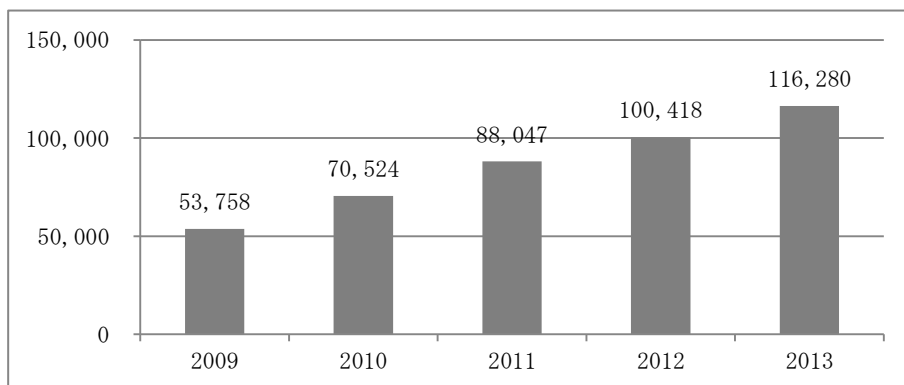


「未来を変えるデザイン」展



デザインハブ・キッズウィーク

表5：デザインハブでの当会による企画・又は支援による展示会の来場者数



[2013 年度開催の企画展と来場者数]

() も () も () も展	2013. 4. 12 ~ 5. 12	18,279 人
未来を変えるデザイン	2014. 5. 16 ~ 6. 11	17,046 人
日本のグラフィックデザイン 2013	2013. 6. 15 ~ 8. 4	28,747 人
新・博多粋伝	2013. 8. 23 ~ 9. 8	5,448 人
メイド・イン・トヤマのデザイン	2013. 9. 12 ~ 9. 24	3,552 人
グッドデザイン・ロングライフデザイン	2013. 10. 1 ~ 10. 17	5,802 人
東アジア空間デザイン会議	2013. 10. 20 ~ 10. 27	2,248 人
グッドデザインエキシビション 2013	2013. 10. 30 ~ 11. 4	
クラフトとデザインの総合と未来形	2013. 11. 20 ~ 12. 25	8,910 人
第 53 回日本クラフト展	2014. 1. 8 ~ 1. 16	7,736 人
やさしいハンカチ展 Part 3	2014. 1. 20 ~ 2. 23	9,872 人
わたしのマチオモイ帖	2014. 2. 28 ~ 3. 23	8,640 人



() も () も () も展



ロングライフデザイン展

2- (2) インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター事業

インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターでの事業は、デザイン領域の拡張と、ワールドワイドな発展につながるテーマでのセミナーやワークショップの展開に務めている。2013 年度はそれらを年間 30 本程度展開した。テーマとしては「社会を変えるデザイン」展に合わせたソーシャルデザイン、サステナブルデザインなど、社会性の高いテーマに特に多くの参加者があったほか、文化庁メディア芸術祭との協力に基づくメディアアート分野のプログラムも好評で、デザイン分野のシンパサイザー育成に貢献した。

さらに、韓国のデザイン状況に関する国際シンポジウムや当会のデザイン・アンバサダープロジェクトに基づくオーストラリアのデザインセミナーなど、海外機関との協力に基づくプログラムを行い、国際的なデザイン情報発信拠点としての機能を担った。



メディア芸術祭シンポジウム

2- (3) 報道・一般向け情報発信

グッドデザイン賞事業を中心に当会事業に関するプレスリリースを通年で 28 回配信した。メディアでの報道掲載は、秋の受賞発表以降に活発で、2013 年度の特徴として特別賞を受賞した事例の取材を通じて詳細に紹介するテレビ番組が複数あった。中でも、日本テレビの情報番組ではグッドデザイン賞をテーマとするコーナーの放送時間が 15 分程度の長尺であった点が特筆される。なお 2013 年度は、グッドデザイン大賞に関する報道がテレビ・新聞などで多数行われている。

2013 年 8 月に芝浦工科大学で開催された国際デザイン学会会議に際して、皇太子殿下によるグッドデザイン賞受賞展示会場視察の報道が行われている。

一般向け情報発信では、JDP メールマガジンを毎月 2 回ずつ定期配信したほか、ウェブ媒体「DESIGN NEWS」は合計 122 回の記事更新を行った。



皇太子殿下による当会展示会の視察

3. 国際広報事業

これまでに協力関係のある各国との良好な関係を維持しつつ、2013 年度は新たにオーストラリア、香港、スイス、韓国（ソウルデザイン財団）、シンガポールとそれぞれデザインプロモーションに関する MOU を締結し、シンガポールではタイ、インドに引き続いて 3 カ国目のグッドデザイン賞との制度連携となる SG マークがスタートした。また、メキシコ・トルコ・英国などとの交流もスタートし、今後の国際交流のさらなる拡大を目指す。

3-（1）グッドデザイン賞海外広報事業

①台湾・韓国・香港でのグッドデザイン賞展の開催

グッドデザイン賞の受賞製品 PR およびブランドの浸透をはかるため、台湾・台北の「台湾デザインエキスポ」「台湾文化創意博覧会」、韓国・光州の「DESIGN KOREA 2013」および香港の「IDT Expo」の各展示会において、グッドデザイン賞のブースを出展した。特に台湾では Facebook との連動により、見学者参加型企画を取り入れるなど、好評を博した。

②タイ・上海での見本市出展

グッドデザイン賞受賞対象の海外市場進出支援のため、ジェトロとの共催でバンコク国際ギフトフェアにグッドデザイン賞受賞企業の製品を中心としたショーケース「JAPAN HOUSE」を出展した。また初の試みとして上海で行われた「ギフトショウ in 上海」にも出展した。

[2013 年度の主な海外展示会への参加]

9 月	台湾デザインエキスポ（台湾）
10 月	DESIGN KOREA（韓国）
10 月	バンコクギフトフェア（タイ）
11 月	台湾文化創意博覧会（台湾）
12 月	IDT Expo（香港）
12 月	ギフトショウ in 上海（中国）

③グッドデザイン賞受賞展 インターナショナル・メディアパートナー事業

アジア・太平洋地区の有力デザイン専門誌 6 媒体に、グッドデザイン賞受賞展の取材およびデザイナーへのインタビュー取材誘致を実施し、各国・地域への日本のデザイン情報発信を行った。今後も各媒体とのコミュニケーションを深め、さらに地域を拡大していく。

3-（2）海外デザインプロモーション機関・団体との関係構築・強化

①台湾、韓国、香港のデザインプロモーション機関との相互協力関係強化

2012 年度に引き続き台湾と韓国、2013 年度はさらに香港においても、グッドデザイン賞のブランド価値を高め、応募促進をはかるため、それぞれのデザインプロモーション機関の協力を得て、各国・地域からの応募に対して現地でグッドデザイン賞二次審査会を実施した。各地の審査委員も加わり、より国際的な視点での審査を実施することができた。また、各機関の運営するデザイン賞やプロジェクトの日本における PR にも協力し、相互の協力関係をさらに強化した。

②タイ・インドとのデザイン賞制度連携継続およびシンガポールとの新規構築

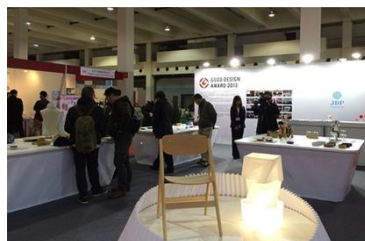
タイ、インドにおけるデザインの発展およびグッドデザイン賞の理念の共有をはかるため、両国のデザイン賞との制度連携に基づく審査・展示協力を実施した。また、2012 年度より協議を継続していたシンガポールとの MOU 調印が行われ、同国のデザイン賞「Singapore Good Design Mark (SG Mark)」の第 1 回審査会と、同時に開催された Singapore Design Business Summit のため、審査委員および講師を派遣した。



台湾デザインエキスポ



DESIGN KOREA 2013



ギフトショウ in 上海



IDT Expo 2013



メディアパートナー



シンガポールとの MOU 調印

4. 人材育成事業

人材育成事業では、これまで日本国内のデザイン人材育成を目的とした事業を展開してきたが、昨年度より、デザイン実践例の多い日本で培ったノウハウや知恵をアジア地域に対して人材育成として導入し、アジア地域全体としてのデザインリテラシーの向上を図るとともに、アジア地域における日本のプレゼンス向上を目指した事業展開を行っている。本年度は昨年度開講した浙江大学（中国）のデザイン講座を引き続き開講するとともに、以下の人材育成活動を展開した。次年度はこれをさらに拡充させる予定である。

4-（1）浙江大学（中国）・千葉大学連携授業

浙江大学国際デザイン学院の学部生向けの副専攻授業として千葉大学 96 時間、当会 96 時間（計 7 回）の授業講座（英語）を開講し、以下の講師陣を招聘した。

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1. [What is Good Design] | 講師：田中一雄氏（GK）
2013 年 3 月 16-17 日 |
| 2. [Design for Happiness] | 講師：御園秀一氏（テクノアートリサーチ）
2013 年 4 月 5-6 日 |
| 3. [Design Sketch] | 講師：堀井育郎氏（トヨタ自動車）
2013 年 5 月 2 日 |
| 4. [New Product at University] | 講師：山口貴弘氏・趙震麟氏（三菱電機）
2013 年 5 月 11-12 日 |
| 5. [Design and Engineering] | 講師：清水耕助氏・菊竹正晃氏（島津製作所）
2013 年 5 月 18-19 日 |
| 6. [Imaging Service and Environment] | 講師：関尚弘氏・小林奈津子氏（キヤノン）
2013 年 5 月 25-26 日 |
| 7. [Design Thinking: Save the Egg] | 講師：井上雅弘氏（名古屋工業大学）
2013 年 6 月 1-2 日 |



浙江大学・千葉大学連携授業

4-（2）APEN（Asia Professional Education Network）への加盟

APEN は産業人材開発方法として極めて優れる PBL（Project Based Learning）型教育を発展させ、かつアジア地域に包括的な高度専門人材教育システム（Multiversity）を設立することを目的として設立された国際組織であり、現在 ASEAN 諸国を中心に以下の 13 ヶ国 13 教育機関が加盟している。当会も 2013 年 12 月 5 日に正式加盟を行った。今後は Multiversity の実現に向け、様々な協力を行う予定である。

加盟機関一覧（2014 年 3 月 31 日現在）：

日本デザイン振興会（日本）／産業技術大学院大学（日本）／上海交通大学（中国）／浦項工科大学校（韓国）／ベトナム国家大学（ベトナム）／カンボジア工科大学（カンボジア）／バンドン工科大学（インドネシア）／タマサート大学（タイ）／マレーシア工科大学（マレーシア）／ラオス国立大学（ラオス）／南洋理工大學（シンガポール）／デラサル大学（フィリピン）／ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ）／ヤンゴン工科大学（ミャンマー）



APEN への加盟

4-（3）AIDI（Asia Institute of Design and Innovation）設立にむけた MOU 締結

APEN におけるデザイン人材の新たな Multiversity となる AIDI 設立に向け、APEN・産業技術大学院大学・タマサート大学（タイ）の 4 者間で連携協定を 2013 年 11 月 12 日に締結した。今後は AIDI 設立に向け協働活動を行う。



AIDI 設立にむけた MOU

5. 地域振興事業（復興支援デザインセンター事業）

2011年3月の東日本大震災を受け同年6月より開始した復興支援デザインセンター事業は3年目を迎えた。復興の進捗も地域により様々で、多くの地域では震災前の生活を取り戻しつつあるが、甚大な被害を受けた沿岸部ではまだまだ復興が進んでいない地域が多く、特に福島は放射能汚染と風評被害というまた別の問題を有している。そのようなことから、「復興支援」の立ち位置が難しい時期となったが、昨年度に続けてグッドデザイン賞の東北地方と茨城県の事業者に対する応募無料措置実施を中心とした活動を行った。

5-（1）グッドデザイン賞事業による支援

昨年度に引き続き、東北6県と茨城県の事業者に対して応募無料措置を行い、支援全県で応募説明会を開催した。2013年度の応募数は支援全県で345点、受賞数は91点となった。なお、本支援事業開始年度からの受賞数は、2011年度は34点、2012年度は80点で、3年間の合計は205点にのぼる。支援開始当初に目標として掲げた「東北・茨城から3年間で100のグッドデザイン」は達成した。また金賞、新設の復興デザイン賞を含め3年間で12点の特別賞と3点のロングライフデザイン賞が選出された。支援前は7県を合計しても受賞数は毎年10点程度であったため、東北地方および茨城の産業とデザインを広く紹介し、販売促進や活動拡大に繋げていくための効果的なプロモーションとなった。また、この支援は2014年度も継続する。

5-（2）復興デザインマルシェの開催

2014年3月8日、9日に東京ミッドタウンの商業スペース内アトリウムにて、支援7県のメーカー・デザイナー約30社が参加、展示販売する「復興デザインマルシェ」を開催した。毎年好評のこの企画は、今年もユーザーと作り手が出会うコミュニケーションの場となった。また、参加者同士のネットワークができたことも喜ばれた。

6. 受託事業

6-（1）東京ビジネスデザインアワード

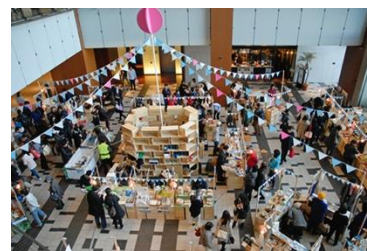
本事業は、東京都が主催し、当会が企画・運営を行う、デザインコンペティションで、東京都内のもづくり中小企業と全国のデザイナーをマッチングし、新規ビジネスの実現化を支援している。2回目となる2013年度は参加企業へのデザイン導入レクチャー、知財戦略・契約の面などを強化した結果、実現化に近い事例が昨年度より増加した。2014年6月の国際見本市インテリヤライフスタイル展で2社、7月のデザイン製品展 DESIGN TOKYO で1社がブース出展し商品化を発表する予定。

6-（2）デザインコンサルティング講座

東京都が主催し、当会が企画・運営を行う、デザイナーを対象とした講座「TOKYO DESIGN EXERCISE」を2014年2月から3月にかけて開講した。デザイナーがデザイン開発に意欲のある中小企業と協働するために必要な知識を習得するための講座として、本年度はいま注目を浴びる「地域×デザイン」をテーマに講座を展開、現場の最先端で活躍するプロデューサーや分野横断的に仕事をするデザイナーを講師に8コマ実施した。企画内容は好評で募集開始後すぐに定員となり、関心ごとの近い受講生同士によるネットワークづくりの場ともなった。



2013年度グッドデザイン賞受賞対象から。(上) 金賞：牡鹿半島のための地域再生最小限住宅 (下) 復興デザイン賞：東日本大震災アーカイブ



復興デザインマルシェ



東京ビジネスデザインアワード表彰式



デザインコンサルティング講座

7. 学術活動

産業構造の変化、産学連携活動の活発化などを受け、昨今ではアジア地域を中心にデザイン振興に関する研究が活発化している。この状況を受け、本年度よりデザインにおける学術活動への貢献を目的に、当会活動に関する研究を中心に以下の学会にて発表した。次年度以降はこれらを拡充する。

7-（1）第5回国際デザイン学会連合国際会議（2013年8月26-30日）

デザイン振興に関する3本の論文発表、アジアのデザイン教育に関するパネルディスカッションおよびテーマセッション、グッドデザイン賞に関する学術展示を開催。展示については皇太子殿下にご視察いただいた。

7-（2）芸術工学会平成25年度秋期大会（2013年12月7日）

デザイン振興に関する3本の論文発表を行った。



国際デザイン学会での展示

8. 賛助会員および後援事業

2013年度の賛助会員および情報会員数は222で、賛助会費と情報会費は広く公益事業に役立てている。また、2013年度に当会が後援ならびに協賛の名義を提供した外部企画は42団体のべ45件。後援（協賛）先の内訳として、自治体およびその関連機関：15、デザイン専門団体：5、業界団体：11、任意団体：2、海外機関：2、民間企業：5、教育機関：2であった。また後援（協賛）事業の内訳は、デザイン展：15、見本市：11、デザインコンペ：10、セミナー・ワークショップ等：9であり、当会は各地・各種の公益事業に広く協力している。

9. 新規事業

2014年度より3カ年に渡り「公益事業国際展開強化資産」によって、

- （1）海外で行う日本デザイン情報発信活動
- （2）国内で行う海外向け日本デザイン情報発信活動

を実施するが、（1）に関しては2013年度から事業に着手している。

9-（1）「海外で行う日本デザイン情報発信活動」の事業概要

アジアのハブ機能を有する香港に「グッドデザインストア」を常設して、グッドデザイン賞や受賞商品等日本デザインの効果的な情報発信を継続的に行い、アジアにおけるグッドデザイン賞およびGマークの認知度を高めることによってグッドデザイン賞への応募件数の増加、Gマーク使用件数の増加を図る。加えて、「グッドデザインストア」を通じてアジアワイドなデザイン情報・人脈・ビジネスのネットワークの構築を図る。



GOOD DESIGN STORE

2013年度の実施事業の概要

2014年度早々に「グッドデザインストア」をオープンするために、2013年度は「グッドデザインストア」開設場所の選定、店舗運営者の選定、クリエイティブに関する委託先の選定を行い、契約締結準備等を行った。

また、「グッドデザインストア」運営の参考事業として、香港の商業施設K11でのグッドデザイン賞商品展示販売企画に協力し、事業の流れや方法についての試行の機会とするとともに、グッドデザイン賞・Gマークの露出のきっかけとした。



K11での販売企画